

大槌には 人のつながりと 育ての輪がある



「あこがれ」から「誇り」に

大槌高校では、学習成果を発表する大高祭が開かれました。この大高祭で、生徒の有志12人が、先生や他の生徒の前で虎舞を披露しました。生徒たちからの「やってほしい」という声に応え、小さな頃から虎舞に参加していた生徒を中心に、演目なども自分たちで構成し、立派な舞を披露しました。とても楽しかったと話す佐々木大地さんは「じいちゃんが虎のかしらを作っていて、小さい頃からかっこいいと思っていました。所

属する団体の会長のように、色んな役割を全てこなせるようにもつと練習したい」と夢を持ちます。

前川陽斗さんは今年から虎舞を始めましたが「人と人との距離感が近いこの町の感覚が好きで、人に壁を作らない性格になった。郷土芸能や周りの人のおかげ」と話します。

中村瑚雪さんは虎舞の人たちをみんな家族のようだと話し、「虎舞をやって、色んな人がいることを知ったし、それが自分の視野を広げてくれた」と感謝します。

中村麗天さんは「父が会長をやっていますが、その姿を見続けていて、前はただ怒られていると思っていたけれど、今では、相手のことを思っただけしい言葉をかけていることが分かった」と尊敬の気持ちを語ってくれました。

それぞれがあこがれの気持ちで始めた虎舞ですが、続けながら人と関わり、感謝や尊敬の気持ちを持ち、それはやがて自分の誇りへと変わっ

人との関わりから新たな道へ

大槌高校では、自分で課題を持ち、地域の人などと関わりながら探究していく「マイプロジェクト」という活動を行っています。この活動をきっかけに、自身がやりたいことを見つけ、進路を決めて大学へと進学した卒業生がいます。

君島真叶さんは、釜石東中学校から大槌高校へ進学。現在は、宮城大学で地域創生学について学んでいます。マイプロジェクトの1期生でもある君島さんは、もともとプログラミングなどに興味があり、マイプロジェクトではWEBサイトで部活動のページを作ることに取り組んでいました。しかし、他のマイプロジェクトの取り組みを見て、自分も地域のために何かできることがないかと考えるようになり、コミュニティづくりに興味を持ち現在の進路へと進みました。

大槌町での学校生活を通して、も

っとも糧となっていることは、地域に対する恐怖感が無くなったことだと話す君島さん。「地域活動に参加し、地域の人々が自分の話を聞いてくれるところよく答えてくれたりする経験の中で、怖がらずにぶつかっていてもいいんだと思えるようになった」と分析し、今の大学での活動にもとても役立つというといいます。

高校3年生の時は、学年をまたいでそれぞれのマイプロジェクトを仕上げ、より大きな効果を発揮するための取り組みを行っていた君島さんは「地域コミュニティを作るためにも、住民一人一人がマイプロジェクトをやるのがいい」と語ります。「何かを解決したいと思う人たちが何人かいて、その人たちをつなげることが、コミュニティというまとまりが自然とできる」と考えています。

そのために、現在でも大槌に帰ってきて、コラボスクールでイベントを行い、マイプロジェクトについて自分の経験を伝えたり、学校間の交

ていきました。たくさん生徒たちの前で、誇らしげに舞う虎は、同じ年齢の若者たちの心に響き、会場全体を感動させました。



中村 麗天さん 中村 瑚雪さん 前川 陽斗さん 佐々木 大地さん

流の手伝いをしたりして、後輩の成長をサポートする活動を行っています。「自分が大槌で育った、成長した、と思える一番はやはりマイプロジェクト。今の考え方の原点でもあるので、次の世代にも、ぜひ一生懸命取り組んでほしい」。君島さんの育ちは、後輩にもつながっていきます。

大学で地域に入り、企画したイベントでは1,000人を動員



君島 真叶さん (20)
まなと

